

## ○豊かな漁場への改善の取組

資料 3

### ・漁場改善策と連携したモニタリング調査

覆砂の効果を把握するために、区画内で覆砂前と覆砂後に以下の調査を行いました。

1. 自記記録式機器による流向流速調査
2. 底質（粒度組成等）調査
3. 二枚貝等の生物調査

#### 1. 流向流速調査

期間：

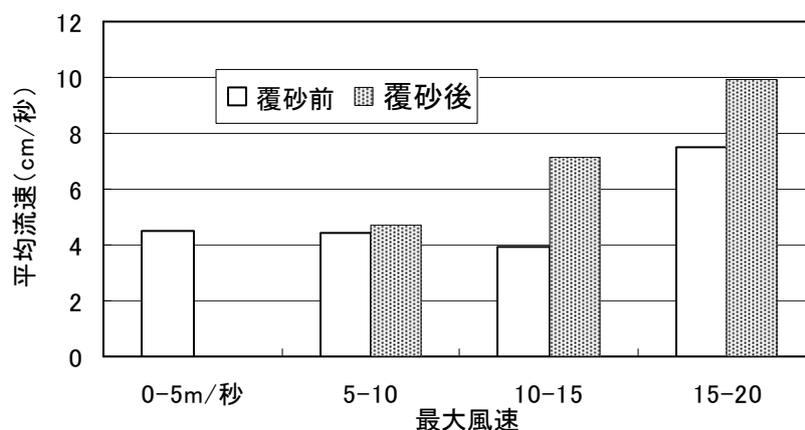
① 覆砂前 6月14～23日，② 覆砂後 7月13～22日

内容：

区画内中央部1か所で，水面下30cmに自記記録式機器を設置し，流向流速を連続観測

結果：

- ・ 一定条件下（風向南寄り「南南東～南南西」，水深2m以上）での毎時の最大風速と流速の関係を比較したところ，覆砂前と比較して，覆砂後は強風時の流速増大が顕著である傾向がうかがえた。ただし覆砂後の調査期間中は強風が続いたため，最大風速5m/秒以下における流速データの比較はできなかった（下図）。
- ・ のり養殖漁期（10～12月）にも本区画内の流向流速の連続調査を実施した（結果は解析中）。今後，夏季のデータとの比較を行う予定。



流速と流速の関係比較

条件：風向南寄り（南南東～南南西），水深2m以上

## 2. 底質(粒度組成等)調査

実施日：

① 覆砂前 6月14日, ②覆砂後 7月13日

内容：

区画内3か所(沖側, 中央, 岸側)で底質表面を1cm程度採取。

粒度組成, 強熱減量, 酸化還元電位を測定

粒度分析結果から中央粒径は覆砂前後で大きな変化はなかった(図1)。泥分率は沖で16%であるが、アサリの生息には問題ない数値である(図2)。酸化還元電位は覆砂前が-0.01V前後, 覆砂後が-0.10V前後であり、覆砂前後とも還元状態とされる-0.20V以下を上回っており、また強熱減量(底土の有機物含量)も覆砂前と覆砂後で2%前後と少なく、アサリの生息には問題ない数値である。

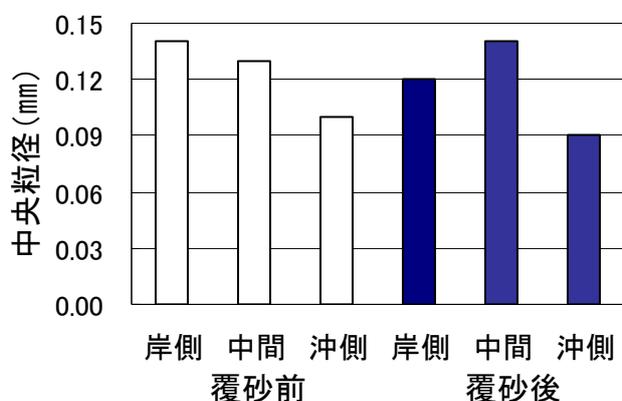


図1 覆砂前後の中央粒径 (mm)

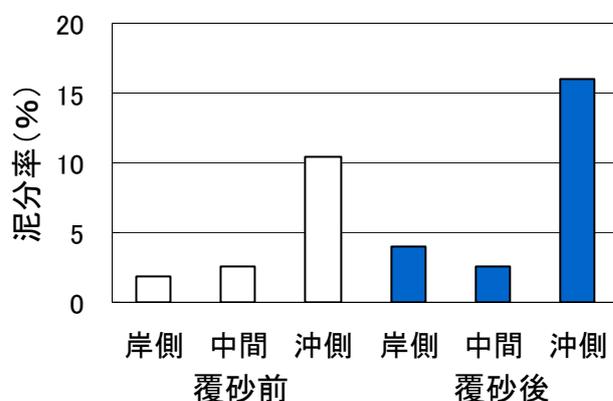


図2 覆砂前後の泥分率  
(粒径 0.063 mm以下)

## 3. 二枚貝等の生物調査

実施日：

①覆砂前 6月6日 ②覆砂後 8, 10, 12月

内容：

区画内1か所で貝類等の資源量を調査(漁協アサリ研究会が実施する貝類資源量調査の中で実施)

- ・覆砂前の調査ではアサリは採取されなかった。
- ・8月26日の資源調査では、13個/m<sup>2</sup>のアサリを確認(11-16mm主体)。
- ・10月1日、行徳漁協が覆砂漁場内に約900kgのアサリを移植。10月13日の資源調査では1,737個/m<sup>2</sup>のアサリが生息(11-16mm主体)。
- ・12月12日の資源調査では、アサリ生息密度は31個/m<sup>2</sup>に減少。
- ・減少の要因は冬季波浪減耗と思われる。さらに、ダイバーにより覆砂漁場の海底を観察したところ、鳥のフンが多く見られたことから、鳥類(カモ類)に捕食された可能性も考えられる。